

## H24 採択課題の中間評価・革新的研究調査（FS）評価（案）一覧表

## 【ハード分野・中間評価】

番号	領域	タイプ	研究名とその概要	研究代表者	H24 委託額 (千円)	中間・FS 評価(案)※	
24-4	4	II	研究名	大型実験および数値解析による連続アーチカルバート盛土の設計規範の構築に関する研究	京都大学 教授 木村 亮	12,000	A
			概要	プレキャストアーチカルバートを盛土内に連続的に設置する構造物の耐震性能を検討し、その設計規範の構築を目指す。盛土構造の弱点とされていた地域分断や閉塞感を解消し、地域の要望から橋梁を選択しなければならない地点でも盛土構造の導入を可能とし、快適で災害に強い社会資本整備をコスト削減施策の中で進めていくことが可能となる。			
24-7	7	II	研究名	津波に強い道路構造物の研究開発	九州工業大学 教授 幸左 賢二	12,000	B
			概要	東日本大震災により発生した 10m を超える巨大津波による道路構造物(橋梁、土構造物)の被害調査を実施し、津波高、津波流速と構造物の被害の関係を定量的に評価する。 ついで、実損傷構造物をモデルとした水理模型実験により、構造物に作用する流速や圧力分布を求める。これらの結果を基に、10m を超える津波の橋梁への作用力、抵抗力算出手法を提案する。同様に遠心模型実験により土構造物の被災基準および対策手法を提案する。 以上の結果を取りまとめて、道路構造物に対する耐津波設計手法を提案する。			
24-9	8	II	研究名	疲労き裂の補修技術に関する研究開発	名古屋大学 教授 館石 和雄	16,700	B
			概要	本研究では、疲労き裂が生じた鋼橋部材に対して、簡易にかつ即時性をもって補修するための技術開発を行う。具体的には、ICR、樹脂注入法、溶接補修の 3 つの技術を取り上げ、それぞれの効果と適用限界を定量的に明らかにするとともに、実施工技術を開発する。			

## 【ハード分野・革新的研究調査（FS）評価】

24-8	8	I	研究名	コンクリート桁橋の多点同時可搬式振動計測による健全性評価法の実用化研究	愛媛大学 准教授 森 伸一郎	9,990	D
			概要	全国のコンクリート桁橋に適用できる合理的・実務的な健全性評価法を提供し、外観目視点検による定性的な道路橋梁の維持管理で定量的評価を実用化することを目的とする。交通に制限を加えることのない可搬式振動計による多点同時振動測定とそれに基づき評価された曲げ剛性を指標とした健全度評価の 2 段階から成る技術を多数(100 橋)の橋梁への適用事例を基に研究開発する。			
24-10	8	II	研究名	舗装路面の動的たわみ計測装置の開発と健全度評価	東京農業大学 教授 竹内 康	19,900	A
			概要	本研究では、路床の泥濘化や地下埋設物の老朽化・劣化等に伴う舗装路面下の空洞等の構造的欠陥を迅速かつ的確に把握し、舗装の健全度評価を行うことができる走行式の非破壊検査装置である“動的たわみ測定装置”を開発し、実舗装において健全度評価を行うものである。			

## ※革新的研究調査（FS）評価：研究継続（新規研究としての採択）の妥当性評価

A: 新規研究として採択	実現性は十分であると評価する。よって、次年度から新規研究として採択し、引き続き研究を継続する。
B: 新規研究として採択（指摘事項有り）	実現性はあると評価するが、研究目標を十分達成するためには、評価者からの指摘事項に留意が必要。次年度から新規研究として採択し、引き続き研究を継続する。
D: 不採択	実現性はほとんどなく、研究目標を達成することは困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。

## 【ソフト分野・中間評価】

番号	領域	タイプ	研究名とその概要	研究代表者	H24 委託額 (千円)	中間・FS 評価(案)※	
24-1	1	I	研究名	都市圏交通調査・分析・予測手法の先導的プラットフォームの構築と実装	熊本大学 准教授 円山 琢也	10,930	C
			概要	スマートフォン上のアプリを使用した安価な交通調査を実用化し、平成 24 年度秋の熊本都市圏 PT 調査と連動して大規模サンプルで実行し、既存調査手法との比較・分析、高度な交通需要予測手法の実用化を目指す。			
24-5	5	II	研究名	歩行者の表情・しぐさを利用した空間評価指標についての研究開発	埼玉大学 大学院教授 久保田 尚	3,100	C
			概要	歩行者の心理を正確に反映した街路歩行空間の評価手法を確立するため、外部から観察可能な歩行者の笑顔や行動を評価基準とする指標を確立し、その指標を用いて映像解析技術から自動的に指標値を算出するシステムを提案する。			

## 【ソフト分野・革新的研究調査（FS）評価】

24-2	1	I	研究名	道路資本の市町村別ストック推計に関する研究開発	筑波大学 教授 堤 盛人	9,000	A
			概要	道路資本のストック額を市町村別に推計するための方法を開発し、日本の全市町村を対象とした推計を行う。また、推計されたデータを用いて道路投資の財務・経済分析を行う。さらに、通常業務における経理処理と電子納品されるデータを用いた道路資産情報管理システムの雛形を提示する。			
24-3	1	II	研究名	道路の旅行時間信頼性の評価と運用に係る研究開発—経済便益計測手法の提案と経路誘導システムの構築—	東京工業大学 大学院准教授 福田 大輔	10,000	A
			概要	道路の旅行時間信頼性(移動の定時性)が向上したことによる経済便益の計測・評価手法を提案・検証するとともに、旅行時間の不確実性を前提とした経路誘導アルゴリズムの開発とそのシステム構築について研究する。			
24-6	6	II	研究名	改良対策立案のための交差点安全性評価シミュレータの研究開発	名古屋大学 大学院教授 中村 英樹	10,260	A
			概要	本研究開発は、交通安全対策代替案の安全性に関する定量的評価を行うための、交差点安全性評価シミュレータを開発するものである。実測データに基づき、車両と横断歩行者の軌跡・速度の変化、各種判断挙動、およびそれらのばらつきを交差点の幾何構造や制御条件に応じて確率的にモデル化してシミュレータに実装し、コンフリクトの程度を再現することで、ヒヤリハットなどの危険性を空間的に出力可能とする。			

## ※中間評価：研究継続の妥当性評価

A: 現行のとおり推進	研究は順調に実施されており、現行のとおり推進することによって十分な研究目的が達成される見込みである。
B: 現行のとおり推進（指摘事項有り）	研究は順調に実施されているものの、十分な研究目的を達成するためには、評価者からの指摘事項に留意の上、推進することが必要である。
C: 研究計画を修正の上推進	このままでは十分な研究目的の達成が期待できないと思われるので、評価者からの指摘事項を踏まえ、研究計画を修正の上、推進することが必要である。
D: 中止	現在までの進捗状況に鑑み、研究目的の達成が困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。